

或いは少額の有給者等が、工場で働いてゐる者の及びもつかない生活旅行をしてゐる連中が多數ゐる。

こうした連中の生活費旅行費等は、いつも、親兄弟からせびるのであるまい。然し、その金の出處はいづれにもせよ、『金』を一つの領りとして、私黨を結んでゐることは明かである。

『金』の領りに依つて結ばれたところには、必ず情落がある。醜事がある。資本家の金で結合する總同盟のダラク幹部と理論や政策を異にしてゐても、金の点に於いては、同じくダラク幹部の名を逃れることは出来ない。彼等は『ニンの謂ふ『職業的革命家』と目認れてゐるが、それはむしろ、賤しき『商賣的革命家』の類である。

三、根據なき流言を放つて非幹部派の排斥

労働組合は、主義の一致に依つて結合するものではないのであるから、意見の相違は、當然のことである。然るに、幹部は幹部派(私黨)の意に反する者には、先づ巧妙に買収の手を延ばし、それでもなほ効果ない場合には、排斥である。

排斥の方法は、排斥すべき個人の居るところに幹部派の小團體を秘密裡に組織して、そこへ組合の機關に掛けない命令を傳へて、根據なき流言を放つて排斥を行はしむる。これは明かに労働組合破壊である。

四、大會の決定を無視する

昨年(一九二〇年)の全國大會では、本澤君が中央常任委員として選出されたのであるが、それが津君に變り、更に河田君に變つた。かゝる變更は相當機關を経るべきものを、然らずして、幹部が勝手に大會の決定を無視して、私黨派の都合を計つたものである。